



マルチメディアクリエイターマガジン「Quit」編集長 浜崎克司氏(リットーミュージック)



デザイナーのためのマッキントッシュマガジン「McN」編集長 猪股裕一氏(エムディエヌ)

井芹 第1回のCu-SeeMe座談会をはじめます。

みなさんは、各界の業界の人やクリエイターとお付き合いがあると思うんですが、コンピュータやデジタルメディアをどう見てらっしゃるんでしょうね。猪股さん、先月開かれたMcNコンファレンスでは、そのあたりはどんな感じでした？

猪股 メディアギャップという言葉が印象的でしたね。

井芹 メディアギャップって？

猪股 ポール・サッフォー氏が講演でいった言葉ですが、これまでのメディアと、これからエレクトリックなメディアが交差する時期のことです。会では、これはいつなんだろうという話で盛り上がってました。

井芹 それは乱暴に言うと、紙の出版より、CD-ROMやネットワークによる出版の方が多くなる日ということですか。

猪股 そういことです。これは、意外と早いんじゃないかという意見が出ていました。

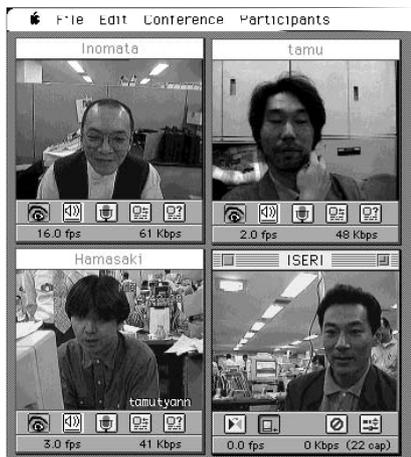
井芹 浜崎さんは、音楽関係の人との付き

CU-SeeMe

CU-SeeMeは、ビデオカメラとコンピュータとネットワークを使ったオンラインのビジュアルコミュニケーションシステムだ。要は、チャットのビデオ版だと思えばいい。このCU-SeeMeを使って、ネットワークで座談会をやろうというわけだ。

初回は、インプレスグループ(本誌を発行しているインプレス、リットーミュージック、エムディエヌなどの出版グループ)の編集

第1回 インターネット インプレスグループ



座談会最中のCU-SeeMeの画面。ここでは4人分のウィンドウが開いているが、最大8人までできる。

合が多いと思うけど、音楽とコンピュータで何か、話題はありますか？

浜崎 彼らは、便利に安くできるからコンピュータを使っているということが大きいね。

井芹 コストの問題ですね。でもそれがさらに進むと、今までまったくなかった作品が作れるようになるのでは？

浜崎 オーケストラを指揮することは、だれでもできることではないけれど、コンピュータならできるとか。特に、サンプリングミュージックは、コンピュータなしでは考えられない。確かに、コンピュータは音楽に適してますね。

猪股 サンプリングとコピー&ペーストで作った作品をCDにしてしまうこともあるでしょ。

浜崎 それはありますね。いままさく流行っ

てきています。コピー&ペーストだと、いままで音楽をやってなかった人でも、その気になればミュージシャンになれるかも。

猪股 どっちにしても、デジタルのテクノロジーが進歩することで、垣根がなくなって来たと言えますね。

井芹 前に、三枝成彰さんと話したことがあるんですが、MIDIの打ち込み作曲のおかげで、楽器をひけない人でも作曲できるようになってきたのはすごいことだと言っていました。コンピュータのおかげで、才能が出てくるのかなあ？

浜崎 それは普遍的なものですよ。

猪股 というか、才能のあるなしが分かる時代では？ DTPにしても、だれでもできるようになってきたわけだけど、できる人だけが本当の



出版と技術の明日を考える「Impress Lab.」マネージャ 田村明史氏(インプレス)



本誌編集長 井芹昌信(司会)

座談会

長とインプレス・ラボのマネージャで、インターネット時代のメディアなどについて語ってもらうことにした。

CU-SeeMeはインターネットだけでなくLANでも利用できるもので、今回は、グループ内のイーサネットLANを利用した。これだと、ビデオ画像と音声も出すことができる。

時代のメディアについて 編集長よもやま話

クリエイターといったら厳しいのかな？

井芹 ところで、テクノロジーの方はどうでしょうか？

田村 ぼくが今おもしろいと思っているのは、デジタルドキュメントですね。出版物は印刷してから配ってるけど、デジタルなら、配ってからも必要などころだけを印刷できるでしょ。

井芹 そのあたりの技術的な問題は解決してるの？

田村 まだまだ問題はあります。デジタルドキュメントでは、まず日本語フォントの問題がありますね。ポータブルなデジタルドキュメントとしては、アクロバットがあるけど、それにしても日本語フォントの問題はあるし、動画は入れられない。

井芹 Mosaicにアクロバットがいたらいいね。

田村 うん、それはきっと使えるでしょう。モザイクコミュニケーションでは、それをやるわけですよ。数年前にDTPでやってたことが、ネットワークで再現されるような感じですね。

猪股 アメリカでDTPが爛熟に入ったのが1987~8年。それが日本では1994年から。その数年のギャップは日本語の特殊性にあるよね。

浜崎 確かに、DTMはアメリカに劣らず早く普及した。やっぱり、言語の問題は大きいんじゃない。

田村 DTVはきっと早いんじゃないの。

猪股 後は、インターネット的なこと言え

ば通信コストかな。アメリカに比べて日本は高すぎるよね。少なくとも、現状のままでは通信コストが気になってしょうがない。

井芹 確かに、インターネットマガジンのアンケートでも、「通信費が高い」という声は多かった。

猪股 結局のところ、卵が先か鶏が先かという問題でしょ。

井芹 でも、アメリカに比べて、まだメディアの規制が多い日本では、何でも発信できるメリットは大きいのでは？

猪股 確かに、そう考えればアメリカより高い料金でも、それなりの恩恵を受けられるといえるかもね。他の国の状況なんかも気になるね。

浜崎 既存のメディアさえ規制している国にもありますからね。

井芹 じゃ、国別で比較して記事にしたら受けるかなあ？(笑い)

と、いったところで、第1回のCu-SeeMe座談会はお開きとさせていただきます。

このコーナーに出してくれる方を募集しています。

編集部とお話ししませんか？

応募の方法は「We Love Internet People」(150p)をご覧ください。



CU-SeeMeのための機材としては、パソコンの他、ビデオカメラとビデオ取り込み装置が必要。今回は、イーサネットのLANを使っているのが快適だったが、インターネットだと38.4Kbpsはほしい。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp